

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 192 号	2017年7月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	--------------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

—7月2日（日）維持活動に13名の会員が参加しました。

作業内容

- ① 蓮田内に蔓延しているカンガレイの除去
- ② ため池内のヨシ、クログワイの除去
- ③ 観察路の草刈り機による除草
- ④ 湿地内、駐車場の草刈り機による除草

協議内容

原田事務局より、6月30日に来訪された村川、池田両氏（宇部観光コンベンション協会）および大坪氏（熊本環境革新支援センター）とのやり取りの説明

—7月15日（土）参加者は13名で、作業内容は以下の通りです。

- ① 遊歩道および用水路周辺の草刈り
- ② 遊歩道の修復
- ③ 水車の修復
- ④ 刈り取った草の処分

作業は10時半頃終了し、その後暑気払いとして、焼き肉会を催しました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

—8月11日（金）福川子どもクラブの子ども探険隊

◎行 事

—7月29日（土）維持管理（草刈・清瀬峡整備）

—8月5日（土）親子自然観察隊（水棲動物観察・須賀河内川）

厚東川中学校 有志による稲作体験（田んぼの手押し草取り器による除草）

—8月20日（日）維持活動・草刈り（駐車場・須賀河内川一部）

なお、昨年（8月7日）まで実施しておりました“フジときららネットの子どもエコクラブ”の行事は、先方の事情により無くなりました。

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「植生」 (原田満洲夫 記)

7月11日 蓮田のハスに一本の花が咲いたのを確認した。ハス田としてビオトープ創設以来旧盆前には必ず数十本、多い時は30数本、絢爛豪華に咲いていたが、この3～4年は全く咲くことが無く、ハスも他の植物【アサザ・寒枯藺(カンガレイ) コウホネ等】に縄張りを盗られて、今年も他の植物の淘汰やエコアップする活動に時間も無くハス田の下流の片隅でひっそりとそれも小さい葉っぱで生き延びていたが、ただ1本花が咲いてくれた。

これを見ると来年は何とかして里山の蓮田として復活したい思いである。それにはまず第一に外部からのハス以外の植物の排除が大事であり、新しく蓮根の植え付けも必要である、ビオトープの生態系保存としては相反する肥料分の十分な補給も必要であろう。

水車の設置がこのビオトープにマッチングしているか否か多く論議されたが、ここの最下流のゾーンに里山として水車・水車小屋・ハス田・田んぼを置けばハス田も含め田んぼの位置が非常にマッチングするのではなからうか？

今更、並び替えるわけにはいかない。

後の祭り 経験活かし 次世代へ



撮影：管 哲郎

あまりにも見事な1輪でしたので、思わずシャッターを切りました。みずみずしいピンクの蓮の花は何と形容してよいかわからないほど美しく、仏様の台座として考えた古の方々は尊敬に値します。

5. 親子自然観察隊 () (事務局 原谷 記)

今月は行事がありません。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 (管 哲郎 記)

(19) カメノコテントウ *Aiolocaria hexaspilota* Hope

コウチュウ目 テントウムシ科

九州以北に分布し、5月頃より10月ごろまで見られます。ナナホシテントウは8mmほどですが、カメノコテントウは13mm前後と大きく存在感があります。初夏になると山口県ではオニグルミの葉が出てきますが、オニグルミの葉を食べる「クルミハムシ」を食べますので、オニグルミの樹を探せば見つかります。また、ヤナギの樹にも集まってきますので、水辺のヤナギの樹にも多く見られます。ビオトープの池のそばに育つヤナギや厚東川の河川敷に多くみられるヤナギには確実に見られますので、探してみてください。

このテントウムシも越冬します、日当たりのよい河川敷の大きな石の下とか、古い農業倉庫の壁板の隙間とかに集団で固まって冬を過ごすようです。筆者も10年以上前に柳井市の河川敷の石の下で数匹固まって越冬しているカメノコテントウを発見したことがあります、残念ながら写真に収めていません、



カメノコテントウ



カメノコテントウの交尾



カメノコテントウのサナギ



カメノコテントウの幼虫

7. 会よりの連絡事項

1、宇部観光コンベンション協会へのフォロー ～管 会員～

7月14日(金)、ビオトープへ観察に来られた協会のお二人(村川、池田)両氏と、熊本環境革新支援センター代表理事、大坪氏を訪ね宇部観光コンベンション協会へ出向く。原田会員よりお二人の名刺を預かったので、何の目的かを確認するためである。

もともと宇部観光コンベンション協会は、宇部市の発展のお手伝いをされており、いろんなイベントや、市民からの相談を受け便宜を図って、発展の一助になれるよう手助けする社団法人であった。大坪氏は月2回宇部市を訪れ、いろんなお手伝いをされているとのこと。宇部観光コンベンション協会として「ビオトープ」が宇部市発展の何かにならないか、視察に来られたようである。大坪氏は、「このように素晴らしい大切な自然をあまり勝手に踏み荒らされたくないのではなかろうか」と心配され、あまり大々的に知らしむべきではないのかもしれない、との意見が出された。

わざわざ現地まで視察に来られたことにお礼を申し、何かあればお力添えいただきたいと挨拶しておく。

2、田んぼの水管理

今年も土用に入った。昔から稲作農家は最終段階に入る前の稲作の知恵として、9月初めから発生し通過する台風の防御の為、しっかりした稲の根を張ることと、有効な実だけになるためや無効な分結も防止する為、この土用に入ったころ土用干しを行ってきた。昔はこの作業をする化学薬剤もなく長年培ってきた百姓の知恵で有ろう。

この7月25日頃やく1週間くらいこれを行います。他のビオトープ各ゾーンには影響が無い様にするため水管理が大変であり、毎朝・毎夕調整後は2～3時間後には更に確認が必要で大変忙しく天気とも予想しながら失敗しないようにするだけである。

8. 編集後記

24時間テレビ、里山保全ボランティア活動、の一環としての活動日。忘れかけていたこのビオトープを造り始めた頃の活気に満ちあふれていた作業風景を。今回120名もの人々が大人も子供も老いも若きもこのビオトープに集い活動する姿に感動。焼いても焼いても崩れなかった刈草の山も重機のをかり見る間に平原になっていく。その山は小川の護岸の補強へと一輪車で飛ぶように運ばれた。若い力を感じる。又カブトムシの森制作、止水池の草引き等々、次々に片付けられ目を見張るばかり。一人でも二人でもビオトープ活動に参加して欲しい。又このようなイベントがあれば、日々追いつけない作業が片付くのかなーと独り言。楽しい一日だった。

(松本 フデ子 記)